

6 委員会の実施

検討委員は、表 6.1の学識経験者に依頼を行った。

表 6.1 検討委員一覧(敬称略:順不同)

氏名	まつえけいご 松 英恵 吾
所属	宇都宮大学 農学部森林科学科 准教授
専門分野	森林計画学・森林計測学・森林リモートセンシング・森林 GIS

氏名	にしぞのともひろ 西園 朋 広
所属	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林管理研究領域 チーム長(資源動態担当)
専門分野	森林計画学、森林計測学、森林情報の計測評価及び持続的利用

氏名	みつだやすし 光田 靖
所属	宮崎大学農学部 森林緑地環境科学科 教授
専門分野	森林計画学、森林経理学

検討委員会は下記の日時で開催した。

1. 開催日時 2023年 1月27日(金) 10:00~12:00
2. 開催場所 会議室と Web 会議の併用による開催
会議室：主婦会館プラザエフ

議事概要

委員	主な意見等
現実林分のデータ把握に係る報告	
西園	DBHの推定は、LiDARで取得した単木樹高と現地調査で取得した単木樹高とは、個体の対応付けが難しいため、小班等でまとめて比較すべきである。
西園	DBHの推定は、樹高の残差平方和を求めず、DBHの残差平方和で推定すべき。
成長予測モデルの検討・整備に係る報告	
松英	小班界の上層木樹高と実際の上層木樹高とで不一致なデータが存在する可能性はあるか。
松英	樹高成長曲線が比較的若齢で上限に達してしまっている。クロスセクションデータの場合、若齢林が過大評価になってしまう傾向があるため、その点を整理する必要がある。
松英	レーザ計測データを活用した収穫予想表の作成の検討も今後必要である。
光田	レーザ計測データの樹高が比較的高いため、Lorey's heightでの計算が影響していないか確認が必要。
光田	フィルタリング時には、あり得ないような地位指数を取る点については省いて構わない。
光田	地位指数曲線のガイドカーブを作成する場合、齢級ごとの中央値を使用し、齢級ごとのデータ数で重み付けを行う方法で検討して頂きたい。
西園	胸高直径推定式の表からカラマツの推定精度は高くないと解釈しても良い。
西園	成長予測モデルの検討・整備（各相関式）において、現地調査結果に加えて収穫調査のデータを加えた方が、レーザ計測結果との比較に適している。
光田	上層木本数は、推定の値ではなく国有林の標準施業体系の値を使用したらどうか。
今後の課題	
松英	レーザ計測データが十分でない地域もあるため、管轄に拘らず、近接のデータを使用するといった方法も検討して頂きたい。
松英	クラスター解析の単位について、管理局ごとに区切られた収穫表でなければならないのかどうか検討して頂きたい。
光田	レーザ計測によって大量のプロットデータが取得できるようになった。大量のプロットデータを如何にスクリーニングするかが重要である。
西園	メッシュサイズが20m×20mであるため、メッシュに入る個体数が少なく、値が不安定になっている可能性がある。メッシュサイズを拡大することは可能か。